

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑭安全対策・緊急時対応

- ◆ 安全対策を考えるうえで、事故を起こさない環境を整えることが大切であり、日々の清掃も、施設の異常を見つける役割があり、何気ない日常のことでも安全を守ることに繋がっているのだと思いました。人任せにせず、大勢でチェックすることで気付きを増やし、子どもたちを支援していくうえで、コミュニケーション能力や自分の身を守る能力、時間を管理する能力を子どもたち自身が育んでいけるよう、促していきたいと思いました。
- ◆ 私たちの仕事で、一番身近な安全対策と緊急時対応については、いざとなると動けなかったり、どうしていいか分からず戸惑ってしまいます。日々の点検やヒヤリハット、職員同士の情報共有が大切になってくるということが分かりました。また、事前に伝えておくことで防げる事故やケガもたくさんあると思うので、日々自分の頭の中でイメージトレーニングをしながら仕事をしていきたいと思いました。
- ◆ 安全対策・緊急時対応では、予防対策や再発防止が大切だと学びました。また、ちょ・きん・さの法則（危険行為があったときにちょっとストップ、きちんと説明、さっと再開）や危険回避能力（3つの能力、コミュニケーション能力、安全に自分の身を守る能力、自分の時間を管理する能力）を身に付けさせることで、自分で自分の身を守れるように指導していくことを今後役に立て、保護者への第一報のときには言葉遣いにも気を付けていくことを職員間で共有したいと思いました。
- ◆ 年々、子どもたちを取り巻く危険の種類も増えてきている中で、子どもたちが安心して過ごすための方法を学ぶことができました。常日頃からマニュアル等で職員同士で緊急時の対応を確認しておくのはもちろんのこと、子ども自身がルールを考えたり、遊び方を振り返ったりする機会を設けることで危険回避能力を育む大切さを理解しました。そして、だらだらと説教っぽくならないように、「ちょ・きん・さ」の法則を実践したいと思います。
- ◆ 今回学んだ、安全指導のキーワードはとても分かりやすく覚えやすいと思いました。特に、色々な観点から見るのが大事な鳥の眼、子ども目線で見ると虫の眼、子どもの心を持って見る仲間の眼の「3つの眼」は、子どもに関わる全ての仕事に共通するものだと感じました。また、子どもの重大事故を防ぐためにも、ヒヤリハットの情報に敏感になり、記録をとることや職員間で情報共有することを大事にしていきたいと思いました。